

1 教育目標

- 明るく健康な子ども
- よく考え、進んでやり抜く子ども
- 力を合わせて働く子ども

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 努力点の主題

自分の考えを深めることができる緑っ子
—タブレットを活用して—

(2) 研究テーマ設定の理由

昨年度は、「主体的に学習に取り組むことができる緑っ子～学習のめあてをつかんで～」をテーマに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりハンドブックに示された、児童が主体的に学ぶための6つの工夫を手立てに実践を行ってきた。しかし、児童がめあてをつかむことができても、受動的に学習に取り組む姿が見られた。また、対話をする場面では、自分だけの考えを伝え合っただけで、考えを深めることができている様子が見られた。一方、学習者用タブレットを、視覚化や共有化を取り入れて効果的に活用をした実践が多くあった。

そこで、タブレットを活用した対話を通して、自分の考えを深めさせたいと考えた。中央教育審議会答申資料「令和の日本型教育」の中では、ICTを最大限活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現させていくことが求められている。図1は、くすのきネットに掲載されている「学びあいを支えるICTの基本的な使い方」である。シンキングツールを使って考えを整理したり、自分や他者の考えを共有したり、比較したりするなど11個のICTの基本的な使い方が示されている。

これまで培ったタブレットの活用方法をさらに充実させ、タブレットを活用した対話を通して、自分の考えを深めることができる児童の育成を目指していく。



図1 学びあいを支えるICTの基本的な使い方

(3) 研究の方法

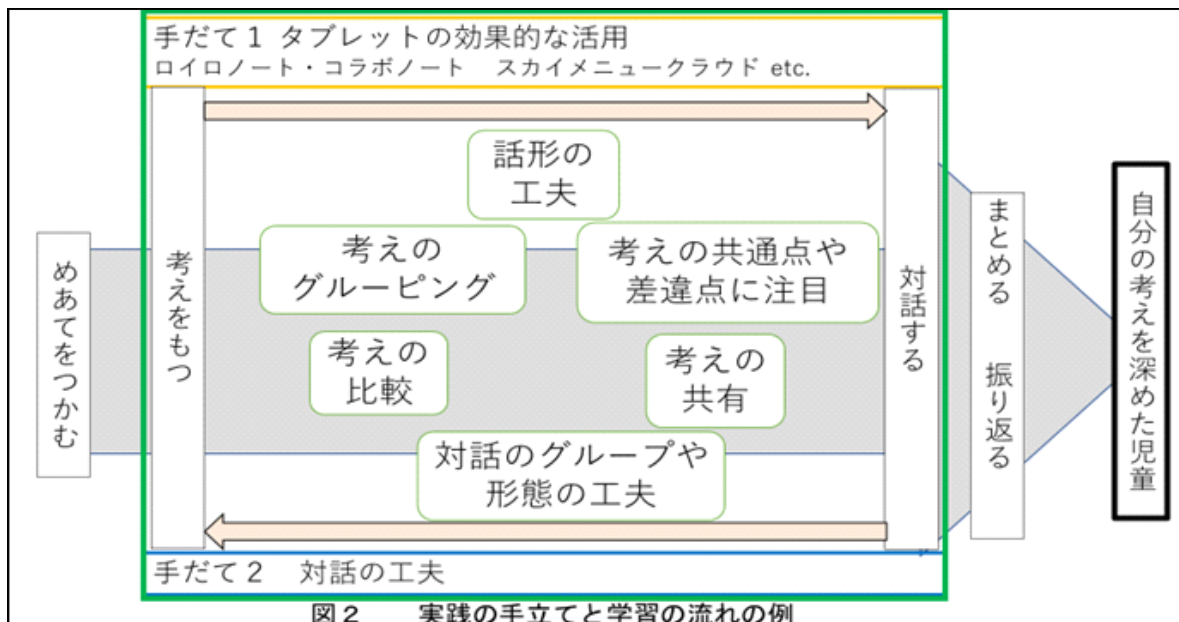
① 手立て 考えをもち、対話をして、考えを深めさせるために

ア タブレットの効果的な活用

- ・ロイロノート ・コラボノート ・スカイメニュークラウドなどを活用
- 例 ・考えを共有する ・考えを比べる ・考えをグルーピングする。

イ 対話の工夫

- 話し合う意図や視点を明確にし、多面的な対話にする。
- 例 ・話型を工夫する。 ・共通点や差違点に注目させる。
 - ・対話のグループや形態を工夫する。



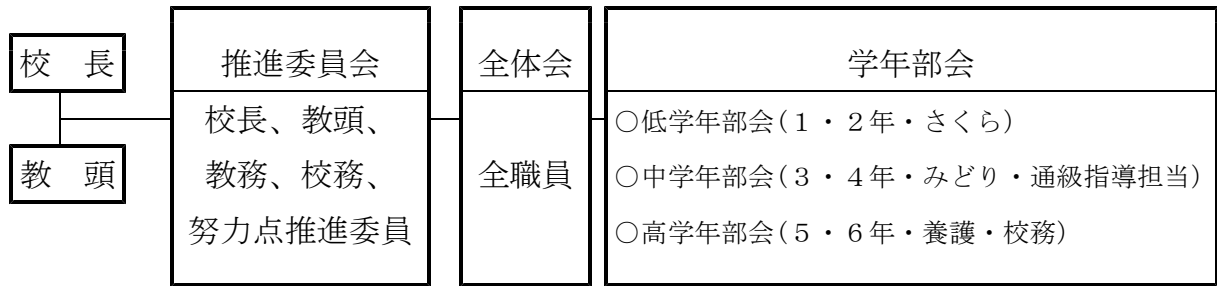
② 授業実践

各学級担任は、年1回授業を公開し、指導方法や手だての有効性について学び合う。公開する授業は、各学年1学期1実践2学期1実践となるように調整する。各部会で事後検討を行い、成果と課題を共有する。なお、何人かの事後検討会をまとめて行うなど推進委員が会の運営を工夫する。授業実践の中で、指導者用タブレットまたは、学習者用タブレットを必ず使用する。各学年の実践を録画して、実践の様子を多くの職員が視聴できるようにする。録画については、実践者が所属する学年部会のメンバーが行う。録画した動画については年度末に削除する。

(4) 保護者への情報公開

学校だより、学年だより、ホームページ等に努力点の取り組みを掲載する。学年だよりには、1学期、2学期に1回ずつ努力点の取り組みを掲載する。

(5) 研究の組織



- ・ 各学年より推進委員を1名選出する。

(6) 年間計画

実施時期	活 動 内 容	作成物
4月	・テーマ設定	
5月	・授業実践	学年計画
6月	・授業実践	
7月	・授業実践 ・前期の研究成果と課題の検証	中間報告書 (学年1部)
8月	・2学期の授業研究の検討、準備	
9月	・中間報告会 ・授業実践	
10月	・授業実践	
11月	・授業実践	
12月	・授業実践 ・後期の研究成果と課題の検証 ・研究のまとめ	最終報告書 (学年60部)
1月	・最終報告会	
2・3月	・次年度の研究計画	